

◆◆◆共通一次試験◆◆◆

■先週末は大学入試センター試験でしたね。

この試験、私が受験生の時代は「共通一次（学力試験）」と呼ばれていました。「大学入試センター」のホームページには次のように説明されています。

大学入試センター試験は、昭和54年度から平成元年度まで実施された国公立大学を対象とした共通第1次学力試験に代えて、平成2年度から国公立大学を対象として実施されています。

昭和53年度以前は、高等学校教育の程度や範囲を超えた難問奇問の出題が少なくありませんでしたが、共通第1次学力試験や大学入試センター試験の導入により、難問奇問を排除した良質な問題が確保されるようになり、現在、高等学校等の関係者からも高い評価を受けています。

■共通一次試験の思い出。

今年は寒が緩んで雨の中の試験でしたが、それまでは試験の時期になると不思議と寒さが厳しくなった記憶があります。

親不孝の私は二回も共通一次をうけましたが二回目は雪が舞う中での受験でした。

「もう三回目はないよ」と母に宣告されて浪人生活を比較的まじめに勉強した私は、万全の準備で試験当日を迎えるはず、でした。ところが。

前日に発熱、それも39度近い高熱でした。

解熱剤を飲んで一時的に熱は下がりましたがすぐに上がります。

倦怠感マックス、頭がぼーっとする最悪のコンディションで朝を迎えました。

■会場まで父に車で送ってもらい、窓の外に雪が舞う中で試験開始。

苦手の国語は大苦戦。暗記科目はまずまず。

ピンチは数学のときにやってきました。

数学の問題は（1）を解かないと（2）が解けない。

（2）を解かないと…という仕組みになっています。

その肝心の（1）が解けない。残り時間はわずか。

まずい、頭が働いてくれない。3回目の受験はないぞ。

教師の夢もあきらめなければならないのか…

と思ったときに、不思議なことが起こりました。

体が熱くなるのを感じました。

奥底から力が湧いてくるのを感じました。

頭の中の霧が晴れていくような感じがしました。改めて問題文を読み直しました。

ぱっとひらめきました。それから怒涛の如く問題を解き始めました…。

40年前の不思議な体験です。

